



# 気仙沼湾横断橋・かなえおおはし



気仙沼湾横断橋  
(宮城県 気仙沼市)



## 広大な東北の人流・物流を力強くつなぐ

上記写真は、気仙沼湾横断橋と気嵐（けあらし※）の様子です。東日本大震災からの復興のリーディングプロジェクトとして国土交通省が整備を進めてきた「気仙沼湾横断橋（愛称：かなえおおはし）」は、景観という観点も含め、その規模やスタイルとも、東北復興のシンボルとして、地域内外の人々に震災伝承や地域復興を示す、東北復興のシンボルとしての役割を担っています。

※気嵐（けあらし）とは、海と陸の極端な温度差が生まれ発生する自然現象です。朝陽が昇ると太陽の光を浴びた海面から霧が立ち上がります。徐々に濃くなった霧は次第にその姿を変え、雲海のような幻想的な景色が目の前に広がります。



建設中の  
気仙沼湾横断橋

東北地方最大の斜張橋 愛称は「かなえおおはし」です。

### 【気仙沼湾横断橋の概要】

- 気仙沼湾横断橋は、陸上部が664m、海上部が680mの全長で1,344mの橋梁です。
- 斜張橋部の最大支間長は360mであり東北最大の支間長です。
- 主塔高さが115mであり、橋梁に使用された鋼材の重さは約8,300トン、コンクリート体積は約12,500m<sup>3</sup>です。
- 斜張橋は主塔、ケーブル、上部構造及び下部構造から構成されています。
- 本橋では、耐久性向上のため、主塔や主桁の鋼部材には金属溶射+フッ素樹脂塗装、下部構造にはエポキシ樹脂塗装鉄筋が採用されています。
- また、維持管理性を考慮し主塔内部にはエレベーターが設置されています。



海上部の  
主塔の架設

橋全体を支える「主塔」は、国内最大級の吊り重機船「富士」によって架けられました。主塔は千葉県の市原市で組み立てられ、その後船で気仙沼湾まで運ばれました。この「富士」は、「気仙沼大島大橋」の工事の時にも使われました。